

「いのち」って あったかい！

小学校1年生

I アクティビティーについて

ねらい

小動物とふれあい、鼓動やぬくもりを感じとる体験を通して、生命の尊さを感じ、自分の生命をはじめ、他者の生命、生きとし生けるものの生命を尊重する心情や態度を育てる。

◆◆◆視点◆◆◆

- ◎生命尊重
- 共感と連帯感
- コミュニケーション能力

設定の理由

子どもたちの遊びや生活様式などが変化し、他者と直接的に関わるよりもゲーム機などによるバーチャル体験が好まれる傾向がある中で、リセットできるゲームなどの影響で「人間は死んでも簡単に生き返る」と思いこむようになるなど、生命の大切さが実感できない子どももいる。

そこで、小さな動物とふれあう体験をさせることで、その鼓動やぬくもりなどの「生きている証」を実感させ、生命あることの喜びを見い出させるなどして、自分もとより、生命あるものすべてをかけがえのないものとして大切にしようとする心情や態度をはぐくみたい。

アクティビティーの概要 (5時間扱い)

活動1	小動物とのふれあい体験1	1時間
↓		
活動2	小動物とふれあって、気づいたこと感じたことを話し合う。	1時間
↓		
活動3	小動物とのふれあい体験2	1時間
↓		
活動4	ふれあい体験発表会をする。	2時間

アクティビティの実際

□ 準備するもの

- ・小動物 ・ぬいぐるみ
（学校で飼育している小動物または、近くの施設で飼育している小動物）
- ・ワークシート1・2
- ・発表会で使用するもの（ワークシート、画用紙、模造紙など）

□アクティビティの進め方

活動1 小動物とのふれあい体験1

- ① 飼育委員や担当の先生から、「してはいけないこと」「しなければならないこと」等、小動物とのかかわり方や世話の仕方を聞くようにする。

<ゲストティーチャー例>

- ・動物病院の方(獣医)・動物とのかかわりに関係ある方たち
- ・動物にかかわっている飼育委員会・飼育委員会担当教員

- ② 小動物とふれあい体験をする。
児童の人数の希望に応じてグループ分けをする。
- ③ 動物とふれあって、気づいたこと感じたことをワークシートに記入する。

活動2 話し合い

- ① 小動物とのふれあい体験活動を通して、気づいたこと感じたことをワークシートをもとにふり返り、話し合う。

<ふり返りの留意点と発問例>

- 小動物のふれあい体験活動を通して、下記の点について話し合う。

- ア 一緒に遊んだ感想。
- イ ぬいぐるみのうさぎと実際の小動物をさわった感じや温かさについて感じたこと。
- ウ 小動物に対する自分の思いや願い。

発問例 動物と遊んで、気づいたこと、感じたことを話しましょう。

発問例 ぬいぐるみとくらべて、本物の動物をさわった感じはどう違いましたか。

発問例

小動物たちは、何をしたら喜ぶと思いますか。

活動3 小動物とのふれあい体験2

- ① 活動1で小動物とのかかわりから感じたことをもとに、さらに小動物とのふれあい体験をさせる。
- ② じっくり遊べる時間を確保する。

活動4 ふれあい体験発表会

- ① 小動物とのかかわりの楽しさや心に残っていることを自分なりの方法でまとめさせる。
- ② 発表会を開く。
 - ア 発表の準備をする。
 - ・小動物と遊び、「どう感じたか」。また、「どんな自分を発見したのか」思いや願いをまとめさせる。
 - イ 発表会を開く。

発問例

一緒に遊んで、「自分がかわったよ」と思うところや「嬉しかったこと、気づいたこと、思ったことを教え合いましょう。

アクティビティを指導するポイント

- ◇ 自分の遊びたい感情だけでた、さわったりふれあったりすることのないように配慮する。どうしたら動物が喜ぶか考えたり、観察したりして発見できるように場の設定をする。
- ◇ ゆったりした気持ち、優しい気持ちになれるように、児童にも心のゆとりを持って対応できる時間の確保と環境づくりをする。
- ◇ 小動物の数で対応が変わってくるが、少なくとも順番に「観察するグループ」「考えるグループ」「実際にふれ合うグループ」など実態に合わせて、グループ分けをしてから活動させる。
- ◇ 「一緒に遊ぶ」体験活動の中で「ぬいぐるみ」とは違い、生きているものの「いのち」があるとはどういう事なのか、1年生なりの思いや考えに気づかせたい。
- ◇ 生活科との関連を図って実施することが可能だが、道徳や学級活動とも関連させ、本時がより充実した学習になるようにする。
- ◇ 小動物とのふれあい体験を実施する際は、児童の安全に十分留意する。

Ⅱ 授業展開例

～小学校1学年「生活科」における授業展開例～

時	学 習 活 動	教師の働きかけ
1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">うさぎと いっしょに あそぼう！</p> <p>1 「うさぎといっしょに遊ぼう。」 ○動物たちの願いを聞こう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜ゲストティーチャー＞ うさぎに接する際のアドバイスについて</p> </div> <p>○うさぎとふれあい、遊ぶ。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・あたたかい ・やわらかい ・ドキドキする ・うごいてしまう </div> <p>○感想シート1を記入する。</p>	<p>○「遊ぶ」というと自分が楽しむことを第一に考えるが、ここでは「うさぎ」が喜ぶことをふれ合いながらさがしてみる。</p> <p>○授業に用意できる「うさぎ」の数でかわり方が変わったり、アレルギーの児童もいたりするので実際にさわる子、観察する子など無理なく、動物の世界に入っていけるグループの作り方にも配慮しながら活動場面を設定する。</p> <p>○児童がうさぎとふれあうことができるよう支援する。</p> <p>○「生きている」温かさや不安を感じることも含めて感想文に記入できるよう支援する。</p>
1	<p>2 「うさぎの喜ぶことを考えてみよう。」 ○気づいたことを発表し合う。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んで感じたこと ・動物たちのために、自分ができること ・動物に対する願いや思い ・動くこと ・生きているということへの気づき </div> <p>○ぬいぐるみと比べてみた時、気づいたことを話し合う。</p>	<p>○前時の活動から「うさぎ」は、どんな行動をしていたかを話し合いの中心に、食事すれば排泄もし、睡眠をとるなど自分たち人間と場所は違ってはいるけれど、「生活」をしていることに気づかせる。</p> <p>○自分から積極的に思いをみんなに伝えている児童を称賛する。</p> <p>○ぬいぐるみとうさぎを比較することで、命のあたたかさに気づかせたい。</p>

	<p>○シート2に記入する。</p>	<p>○生きているものに対してどのような行為をすればよいのか話し合ったり聞いたりして気づけるようにする。</p>
1	<p>3 「うさぎと遊ぼう2」 ○前時の自分の願いや思いを伝えるよう遊ぶ。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな同じに生きているんだ ・いのちは大切 ・人にも動物にも草にもいのちがある ・かわいいね ・あたたかい血がかよっている ・いやな時もある ・水やえさがひつよう ・うんちもでる ・すんでいるへやをそうじする </div> <p>○メッセージカード記入 ◎まとめ(例)・・・ 獣医さんから獣医としての喜びや大変さなど「命」についてお話をしてください。</p>	<p>○体験した感想、自分が動物に対して感じたこと、新たな自分の発見などを記入したワークシートに記入した思いや願いが実現できるようにする。</p> <p>○どういう行動をとると、「うさぎ」が喜ぶ(動物のためにしようと思うこと)かを前時の学習から学んだことを生かしながら実際に実践してみる。</p> <p>○うさぎと一緒に遊ぶことが自分の喜びとして感じられるようにする。</p> <p>○うさぎのいのちに注目している意見に対して称賛する。</p>
2	<p>4 体験発表会をしよう。 ○グループで体験発表会の準備をする。 ○体験発表会をする。</p>	<p>○総まとめの発表ができるように支援する。 ○お互いの発表を聞くことから自分たちの活動での学びに気づくことができるようにする。</p>

Ⅲ 資料

(1) ワークシート1

〇〇〇をさわったら

1年 くみ なまえ

〇〇〇は どんなことを していましたか？（かんさつ）

〇〇〇に どんなことを してあげましたか？（おせわをする）

じぶんのしてあげたことは 〇〇〇にとって どんなことですか？

〇〇〇をだいたら どんなかんじが しましたか？（かんそう）
（手・おなか・むね・こころ）

(2) ワークシート2

〇〇〇をこんど、さわったら

1年 くみ なまえ

〇〇〇がよろこぶために なにを してあげたいですか？
(なかよしのめあて)



参考 グループ活動を効果的に進めるテクニック その1

ブレインストーミング

新しい主題を導入し、創造性を促進し、多くのアイデアをすばやく生み出すための方法。特定の問題を解決したり、ある問いに答えたりするときに活用できる。

【活用方法例】

- ・ブレインストーミングしたいと思う問題を決め、さまざまな答えが出せるような問いを考える。
- ・児童・生徒全員が見えるところに問いを書く。
- ・児童・生徒は、自分たちの考えを自由に発言する。教師は、児童・生徒の発言を、誰もが見ることのできる場所（たとえば模造紙など）に一語で、または短文で書く。
- ・誰からもアイデアが出なくなったら、ブレインストーミングは、終了。
- ・児童・生徒にコメントを求めながら、提案されたことがらを一つずつ検討していく。

【留意点】

- ・新しい提案（児童・生徒の発言）は、どれも残さず書き留める。
- ・意見の提案が終わるまでは、他人の書いたものについてだれも意見を述べないようにする。また、すでに出された意見は、くり返さない。
- ・誰もが意見を出すように激励（賞賛）する。
- ・出された提案の意味がよくわからない場合には、説明を求めるようにする。

ウォール・ライティング

ブレインストーミングの一種。児童・生徒に自分たちの意見（考え）を小さな紙片（付箋紙等）に書いて壁に貼る活動。この方法の利点は、他の人たちの意見（考え）の影響を受けずに、児童・生徒が自分でじっくりと静かに考えることができること、さらに貼り付けた紙は、意見（考え）を分類しやすくするように自由にあちこちに張り替えることができることにある。

ディスカッション

ディスカッションは、児童・生徒が当面している問題に対して自分たちがどんな態度でいるかを、自分で発見するのに効果的な方法である。ニュース、ポスター及び事例研究は、ディスカッションを活性化するのに役立つ手段である。「・・・についてあなたはどのように考えますか?」と問いかけることから、ディスカッションを開始するようになる。